

最近感じたことについて

川島 周

現在の保険医療制度については数多くの不合理な点がありますが、私は最近どうしても理解できないものに遭遇いたしましたのでこの紙面をお借りして述べさせていただきます。

それはCAPDに関してであります。CAPDは腎不全治療の一翼を担うものとして地位を確保しており、また患者さんの quality of life 面からも今後ますます向上・改善が期待される治療法であることには異論がないと思われます。ついでにつけ加えますと当院でも約40人のCAPD患者さんがいらっしゃいます。

しかしながら私がどうしても理解できないのはその点数設定であります。特に最近開発された新しい回路を用いる方式については異様な高価格としか言いようがありません。

なぜなら一般的な通院HDのレセプトよりも一ヶ月あたり数万円以上も高いのです。病院の建設費・医療職員の人件費をはじめとてさまざまな経費をかけて行われている治療より患者さんが自宅で塩化ビニールだけの回路を使って行う治療が割高とはどうしても理解できません。塩化ビニールの回路代だけで一ヶ月20万円近くなるとはどうしても不可解です。確かに腹膜炎の発生頻度は減少するかもしれませんが、そのために毎月30数万の医療費が50数万になることには大きな疑問を感じます。

腎不全治療に莫大なコストを必要としているのはまぎれもない事実であります。しかし治療を担当しその取捨選択について殆どの裁量権を委任されている我々医師としては常に安いコストで治療できるよう心掛けなければならないのも事実だろうと思います。このような論点からCAPD療法の選択には慎重な判断をされることを提案したいと思います。